東北関東大地震支援隊本部
BOND & JUSTICE

それは、「誰か」ではなく一人一人が
意識を高めなければならない。

Copyright & Photographs©2011 BOND & JUSTICE

被災者のために何か支援したい。

私達、Bond&Justiceは、「被災者のために何か支援したい。」そう思っても、たくさんの人々が被災者のためにできることは限られているなか、被災地への物資支援を大震災の翌日には既に被災地に物資を運んでいました。

代表者の大土雅宏は、被災者本人でもあります。被災地域の復興には、長期が見込まれることもあり、地元の人々への支援に対する熱意から、この活動はスタートしました。有志だけの組織ではありますが、代表者の長年の人間関係での強い絆で出来上がったネットワークです。現在は拠点を世田谷エリアを中心においていますが、物資輸送優先にて事務局自体まだ具体的に組織形成に至っておりません。

ボンド&ジャスティスのメンバー。

現在の体制とシステム。

代表者自身の前職で培った人付き合いの輪と友人達への声がけにより、3月22日現在、全国28か所もの拠点に支援物資の倉庫拠点を確保。日々被災地への物資支援を行っています。

災害から10日が経過している段階で、この組織への賛同者は既に600人近くの賛同協力者と物資提供者がネットワークメンバーとして存在し、一日10トン近くの物資が集まっている状況です。そして既に、累計80トンほどの物資を10数箇所に届けている実績があります。

被災地では、避難所のリーダーや被災された方々と直接交流を通し、「今必要なもの」を的確に捉えて物資を調達・分配。

毎日のように全国にある物資保管倉庫に10トン近くの物資が集まっている。(現在28か所)

全国から600人近くの賛同協力者が集まり、念入りに打ち合わせをし、被災地へ物資を運びます。

現地自治体とのコンタクト及び調整を行う。

主な活動の方法については、ネットワークメンバーからの情報から物資不足地域を把握し、現地自治体とのコンタクト及び調整を行う。主に孤立した集落や、独自で形成されたコミュニティ、指定以外の避難場所で物資が滞っている地域を把握。自費での支援物資の購入から、輸送用トラックの手配を行い、被災地へ自分達だけで届けている。

物資の輸送手段としては、主にレンタカーやメンバからの好意提供によるトラックを貸与されての活動です。

支援者達からは、好意の物資が送られてきており、支援者の一部の方が提供した各倉庫(現在28か所)から、物流ネットワークを徐々に形成。被災地に一番近い倉庫を栃木県内に最終集荷所として、被災地各方面への配送仕訳から輸送を繰り返し行う。

被災地では、物資提供先の避難所のリーダーや被災された方々との直接交流を通し、「今必要なもの」を的確に捉えて物資を調達・分配する方法をとっている。被災者との交流は映像や写真に収めて記録。今後長期化が見込まれる復興に対し、この惨劇の記憶を風化させないために支援者に対して協力を訴えかけ続けております。

ネットワークメンバーの情報から物資不足地域を確認し、現地自治体との調整を行い、主に孤立した集落や、指定以外の避難場所で物資が滞っている地域などを把握し、迅速で的確な支援物資を行います。

Copyright & Photographs©2011 BOND & JUSTICE

私達の思い。

今回の災害は本当に広域に広がり大地震、津波、原子力発電所の爆発による放射能汚染、交通網の破壊と被害は甚大です。復興も一年や二年どころの話ではありません。向こう何年もかかるでしょう。
……避難所からいつ出られるかも解らない。
……仕事場が再開する見通しも立たない。

東北地方には多くの人が原発の生み出した経済の恩恵を受けていた事実もある。だが原発の被害は、農家や漁師のみならず、そこに住んでいた人々の復興にいったい何年かかるのか? 簡単に戻れるはずがありません。長期的な支援が必要なのは明らかであり、その事実を胸に刻む為にも多くの「地獄」の中に笑顔があったり、少しでも多くの救援物資により人々が喜んでくれるなら、何度でも行かなければならない。そのために、我々は今も全国の有志から物資をかき集めております。全ての被災地の皆様にお悔やみを。今回の復興への道は社会のあり方を一から全て立て直すことです。「誰か」じゃなくて一人一人が意識を高めなければならないと実現は不可能です。

再構築をするチャンスをもらった自分達です。映画で見たかもしれないことが、今、これが現実です。ここ、日本で起こっていることなのです。ここから自分等が学び、世界に啓蒙していくことが我々の大きな役割であり、二度と同じ惨劇を繰り返さないためにも今我々のやるべきことがたくさんあります。

もう戻れる日常はありません。新たな時代を迎える為には今この日本から世界に伝えていかなければならないのです。一人一人の人々を繋ぐ絆と義の気持ちが社会を救う鍵となることを信じています。

皆さんのお力をどうか私達にお貸しください。

東北関東大震災支援隊本部
代表 大土雅宏

被災地でもテレビなどでよく流れている地域は物資もあるのですが、特に放送されていない地域では、衣食住と性の、精神的な衰弱が始まり、心ない者たちによる、犯罪が起きています。辛く苦しい想いをしている沿岸地区とその周辺の被災地の方々を救うため、「誰か」じゃなくて一人一人が意識を高めなければならないと実現は不可能だと思っています。人々を繋ぐ絆と義の気持ちが社会を救う鍵となることを自分たちは信じています。

Copyright & Photographs©2011 BOND & JUSTICE